

ブドウ品種‘シャインマスカット’において良型な果房が形成できる1回摘粒法			
【要約】‘シャインマスカット’の満開7日後以降に果房の9車を残して先端側の車を切除し、各車において規則的に摘粒して玉直しをすると、肩部に果粒が巻いた良型な果房を慣行の2回摘粒法に比べて約半分の作業時間で省力的に形成できる。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・果樹係		【実施期間】	令和4年度～令和6年度
【部会】	農産	【分野】	競争力の強化
		【予算区分】	県単
		【成果分類】	指導

【背景・ねらい】

‘シャインマスカット’では贈答用等の肩部に果粒が巻いた良型な果房（以下、良型な果房と表記）（図1左）は通常、予備摘粒と仕上げ摘粒の2回の摘粒と玉直しにより形成される。特に仕上げ摘粒は房型の良不良を左右することから、熟練した技術と時間を要する。

一方で県内では省力的な摘粒法として1回で摘粒できる「宮田式これっきり摘粒法」（農業技術体系果樹編ブドウ）（図2左）が普及している。しかし、‘シャインマスカット’では縦長で整った果房に仕上がるものの肩部に果粒が巻かないという課題が生じている（図1中央）。

そこで、本研究では‘シャインマスカット’において省力的かつ1回の摘粒と玉直しで良型な果房を形成するための新たな摘粒法（以下、本摘粒法と表記）を検討する。

【成果の内容・特徴】

- ① 開花始めに花穂整形により花穂の先端3.5cmを残し、無核化処理を行った後、満開7日後以降に穂軸の着生位置が揃っている3支梗（以下、車と表記）を上段3車（1～3の車）とし、中段3車（4～6の車）、下段3車（7～9の車）の計9車を残す。先端側は車と果粒の着生に一定の法則がないことから、残りの車を切り落とす。残した9車について上段、中段、下段ごとに摘粒を規則的に行い（図2右）、満開25～30日後に玉直しを行うと1回の摘粒で良型な果房が形成できる（図1右）。
- ② 肩部（上段）の1～3の車は全ての車で6粒以上残すと肩部の隙間が1粒以下の良型な果房の割合が高まる（図3、5）。
- ③ 本摘粒法では摘粒と玉直しの10a当たりの合計作業時間は82時間となり、慣行の2回摘粒法に比べて作業時間を約半分に短縮できる（図4）。
- ④ 本摘粒法で形成された良型な果房では飛び出し粒、果粒同士の密着カ所が発生するが、全体の房型を大きく損なうほどではない（図6、データ省略）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 本摘粒法は車がバランスよく配置された良型な果房を利用する。
- ② 肩部の果粒の巻きは穂軸を中心とした隙間の大きさを果粒0.5粒単位で評価した（図5）。
- ③ ブドウ生産者へのアンケート結果から良型な果房の肩部の隙間を1粒以下と決定した。
- ④ 肩部（上段）の1～3の車で黒塗りの位置の果粒が確保できない場合は白抜きの位置の果粒を摘粒せずに必要粒数を確保すると良型な果房の割合が高まる（図2右）。
- ⑤ 無核化のジベレリン処理を1回処理とすると2回処理に比べて果粒重がやや小さくなるが、軸幅が狭くなることから良型な果房となりやすい。

[具体的データ]



慣行2回摘粒法
(良型な果房)

宮田式これっきり
摘粒法
(玉直し無し)

本摘粒法

図1 摘粒方法の違いと房型の比較

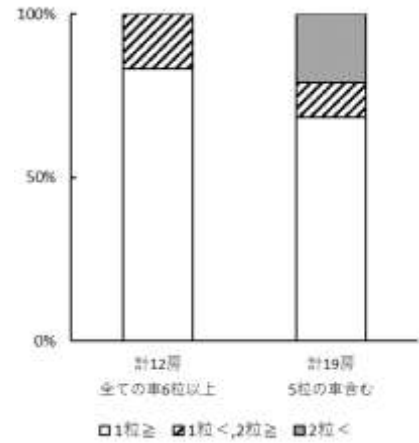


図3 肩の隙間別房の割合 (2022年)

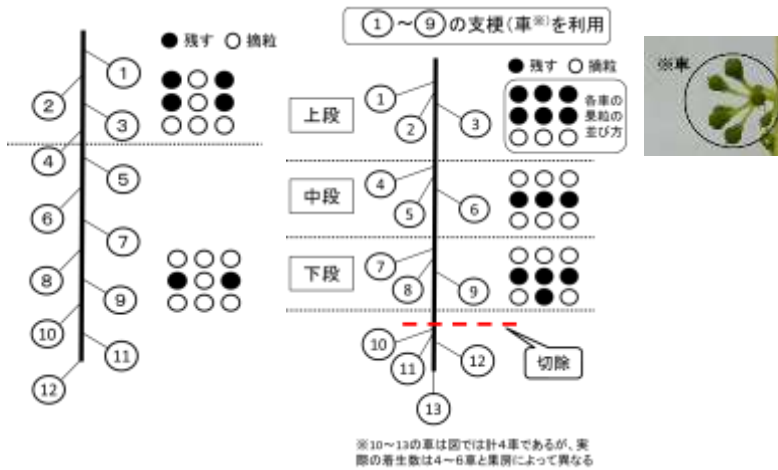


図2 宮田式これっきり摘粒法 (シャインマスカット用) (左) と本摘粒法 (右)

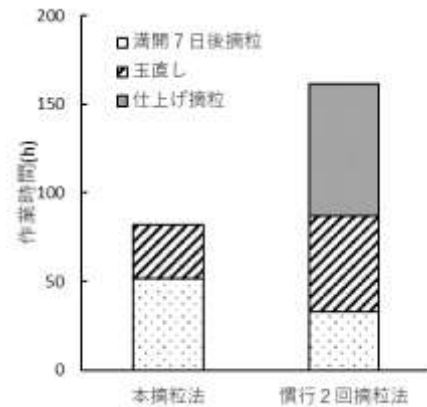


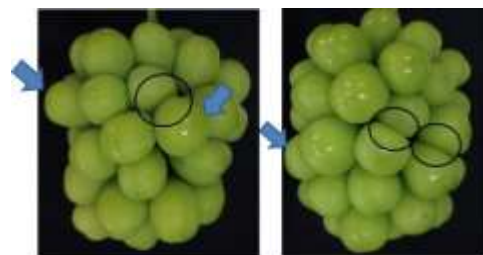
図4 摘粒+玉直しの作業時間の比較 (2023年)
(10a 当たり 3000 房として計算)



隙間1粒

隙間2粒

図5 肩部の隙間による果粒の巻きの評価



飛び出し粒

密着力所

図6 飛び出し粒、果粒の同士の密着力所

・研究課題名

大課題名：経済活動としての農業・水産業の競争力を高める研究

中課題名：農業・水産業をより魅力ある職業に

小課題名：気候変動に対応できる有望品種・品目の栽培技術および病害虫対策技術の確立

・研究担当者名：橋本 勇輔 (R 4～R 6)

・その他特記事項：R 5 年度果樹技術研究会で一部を発表